

【森ハブWG：森林の生物多様性調査分析技術WG担当】

[日立建機株式会社](#) 新事業創生ユニット ビジネス開発室 門 裕一（かど ゆういち） <[y.kado.qs@hitachi-kenki.com](mailto:y.kado.qs@hitachi-kenki.com)>

油圧ショベルの応用製品の設計開発から経営企画部門での業務などを経て、現在ビジネス開発室にて森林を扱う新事業を担当中。以下の内容の新事業に取り組む中で森林の持つ生物多様性の価値に興味を持ち、森ハブにてWGを立ち上げさせていただきました。

【新事業にかける想い】

日本では森林面積のおよそ3割（四国と九州の合計以上）が、健全な状態に保つために必要な間伐などの手入れがされなくなっていると言われてしています。そのため森林が持つ環境保全や土砂災害の抑制などの機能が十分に発揮できていない状態となっています。新事業では、これらの森林を健全化することにより、温室効果ガスの固定・吸収や水源かん養、生物多様性の保全など、森林の持つ本来の機能が発揮できる環境を作っていきたいと考えています。そして、日本の豊かな森林を取り戻すことを目標としています。

【新事業のコンセプト】

日立建機から企業の皆様に新しい森林保全の取組を提案したいと考えています。

この森林保全への環境投資を行った企業には、非財務情報として活用可能な品質のレポートを提供いたします。

具体的には、保全対象の森林が持つ以下の環境価値についてのレポートの提供を考えています。

①CO2固定・吸収…カーボンオフセットに適応可能。

②水源かん養…CDPスコアの加点に貢献。

③生物多様性…TNFDレポートに対応可能、保全面積のOECM登録により30by30目標に貢献。

これらの環境価値は、昨今話題のESG投資・融資においても評価の対象となる非財務情報として注目され、国際的なルールや基準、フレームワークが定められつつあり、賛同する企業も増加傾向にあります。弊社の新事業は、お客様の森林保全の取組をCSRの取組で終わらせるのではなく、非財務情報として効果的に開示することにより、企業価値を高め、投資や融資の面で優位性を持って事業に取り組んでいただけるソリューションとすることを考えております。

この新しい森林保全の取組によって森林を健全な状態に管理できる状態をつくります。そして日本のすべての森林が健全に管理される社会の実現につなげます。